

## 20世紀から21世紀へ

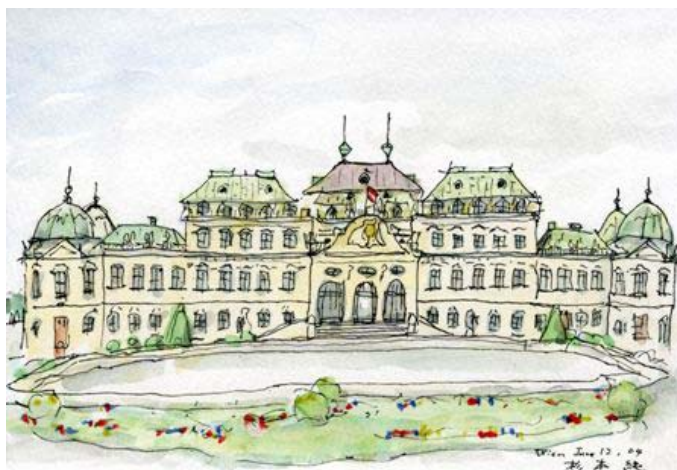
～ウイーン駐在中の思い出～

元日本人会会長（ジェトロウイーンセンター所長） 勝又 宏

2000年12月から2003年6月までの2年半お世話になりました勝又宏です。日本人会50周年おめでとうございます。5～8年前ということで、現在オーストリアにお住まいの皆様方にはそれ程古い話ではないと思いますが、当時を振り返ってどんな時代だったかご紹介いたしたいと思います。

2000年頃は日本の景気もどん底で、日本企業の欧州事務所も選択と集中の名の下にウイーン事務所閉鎖が相次ぎ、一方で工場はチェコやハンガリーに向かうということで、日本人会の法人会員は減少の一途という状況、日本人学校も生徒数の減少に苦しんでいた時代でした。

さらに追い打ちをかけたのが2001年9月11日の同時多発テロにより、航空機での移動が自粛され、出張者や旅行者が激減するという状況にもありました。このような時代背景は、旧東欧地域へのゲートウェイであり、音楽や建築などの芸術、自然の都ウイーンにとって辛い時期でしたが、日本人会はソフトボール大会やワイナリーめぐり、映画鑑賞会、歩いてめぐるウイーンツアー、若手音楽家による対談、オーストリア料理を学ぶ教室、アウガルテンの工房見学などの企画や、喫日協会との共催のクリスマスパーティやスキー旅行など数多くのイベントにより在ウイーン日本人との方々の交流が出来たと思います。



ベルヴェデーレ宮殿

又、この頃の最大のニュースは、何といたってもユーロ導入でしょう。2002年1月1日からそれまでのオーストリアシリングからユーロに変更され、2001年の年末からそれこそお祭り騒ぎでした。その中で日本人会も会費をどうするのか、苦しい運営の中便乗値上げと批判を浴びないように役員会でいろいろ話し合った記憶があります。1ユーロ=13.7603ATS という半端なレートですからどうしても値上げか値下げになります。結局どうしたんでしたっけ？忘れてしまいました。このとき感じたエピソード「ウイーンでは商品やメニューにこれまでのシリング表示とユーロ表示を並べて記載し、便乗値上げはしていないことを確か政府の指示で実施していたと記憶しています。ところが、その正月休みにローマに行った時のこと、全くユーロがイタリア人に認知されておらず、街中では「何このお金」という状況、悪名高いタクシーでも初めて詐欺に

も会わず、むしろこちらから説明する始末。ドイツ語を話すイタリア人と本物のイタリア人の違い、国民性を納得した次第です。」

その頃ウィーン市内で横行していた犯罪は路上での詐欺行為でした。手口は、まず一人が道を聞いてきます。次に別の犯人が「私は警官だ、今のは麻薬の売人だ」、とか言って被害者にサイフを出させ目の前で紙幣を数えるうちに、なんとお金を抜き取るというまさに手品師！旅行者に限らず在住の方も結構経験したようです(実際に被害にあった方は旅行者がほとんどだったと思いますが)。この頃スペインでは首絞め強盗が氾濫していた時代ですので、ウィーンの方がまだよかったかもしれません。

最後に、在任中最大のイベントは天皇、皇后両陛下が2002年7月ポーランド、ハンガリー御訪問時にオーストリアにお立ち寄りになられたことです。これは1999年にクレスティル連邦大統領夫妻が国賓として訪日したことへの答訪としてのご訪問でした。日本人会としても、役員が代表して拝謁する栄に浴した訳ですが、両陛下はお疲れの中大変お優しく一人一人のお声をかけていただきました。この時のハプニングを一つだけ。この日、大統領主催の昼餐会があり私達夫婦も末席にご招待頂いておりましたが、ここから両陛下がお泊りのインペリアルホテル内の謁見会場へ移動する際、私たちは車列の最後尾で移動しました。大使館の方の話では、両陛下は一旦お部屋でお休みになった後会場へ来られる、とのことでしたが、なんと真っ直ぐに会場へお入りになられたところ、お迎えすべき日本人会会長がいない！もう一度やり直し、ということになり、両陛下が一旦部屋を出られるところに我々が到着！！昔なら不敬罪、冷や汗をかきました。両陛下のご滞在は4日に渡られ、何度かご尊顔を拝しましたが、常に威厳のある陛下とお優しい妃殿下をお迎えできた事は日本人会として大変名誉なことでした。

<勝又 宏 (かつまた・ひろし) >

2000年12月から03年6月までJETRO所長。当時、妻と娘で赴任しました。

近況：今は民間企業で汗をかいています。娘も大学受験の年になりました。